

平成24年度

事業報告

社会福祉法人 シルヴァーウィング
特別養護老人ホーム 新とみ
短期入所生活介護 新とみ
通所介護 新とみ

1 法人関係

(1) 理事会・評議員会開催状況

平成 24 年 5 月 27 日	第 1 回	理事会・第 1 回	評議員会
平成 24 年 9 月 17 日	第 2 回	理事会・第 2 回	評議員会
平成 25 年 1 月 14 日	第 3 回	理事会・第 3 回	評議員会
平成 25 年 3 月 20 日	第 4 回	理事会・第 4 回	評議員会

(2) 審議内容

第 1 回	平成 23 年度事業報告、平成 23 年度決算報告、その他
第 2 回	平成 24 年度第 1 次補正予算、新とみ大規模改修、その他
第 3 回	理事・監事・評議員の改選、その他
第 4 回	平成 25 年度事業計画、平成 25 年度 予算、その他

2 特別養護老人ホーム 新とみ

(1) はじめに

本年度も定員 40 名に対し、満床月はなく、月平均入所者実人員は 32.0 人であった。また、長期入院などによる退所者が 8 名あり、年々入所者の入院実績も高くなってきている。年度末現在の入所者の平均年齢は、男性 76.3 歳、女性 89.7 歳であり、男女合計の平均年齢は 88.4 歳である。なお、特養の年間平均稼働率は 74.55%であった。(別表 1 参照)

満床月がなかったのは、常に 4~5 名の入院者がいたためである。空床はショートステイのベッドとして利用しているので、稼働率は 104.50%と高い数字になっている。

(2) 事業実績について

利用者の平均介護度は 23 年度の 4.26 に対し、24 年度は 4.22 とほぼ横ばいである。(別表 2 参照) 特養での対策としては、適切な健康管理の下で一層の介護の充実を図るとともに、入所者の事故や病気のための入院を極力抑えることである。

そのため、①健康管理への配慮 ②衛生管理の徹底 ③日常生活での異変に対する応急処置の徹底等が挙げられる。24 年度においてもインフルエンザやノロウィルスの流行に備え、空気除菌清浄機の活用、居室等への除菌剤の配置などを強化した結果、感染症の発生はほぼゼロにおさえられた。

(3) サービスの内容について

本年度は引き続き、食事、入浴、排泄といった介護の基本業務をしっかりと行うことはもとより、身体拘束廃止、感染症防止、防災、安全対策、環境整備等にも力を入れて取り組んだ。特に、東北での震災をふまえての防災訓練や消火設備の見直しにも力を入れ、法人作成のBCPの周知徹底を行なった。

レクリエーションやリハビリテーションの充実ということでは、月 2 回の音楽療法、月 2 回のセラピードッグ、理美容などを実施しているが、その他にも、デイサービスと協働して各種の行事やボランティアの積極的な活用を行い、入所者の日常生活にうるおいとやすらぎとかがやきが得られるよう努力した。4 月の櫻の咲く頃には、近隣の公園の櫻見物にお散歩レクを実施し、5 月には町内会の子供御輿を支援する場としてスペースを提供し、子供たちとのふれあいの時間を共有した。6 月には紫陽花の鑑賞会と銀座中学校のかたがたの来訪、7 月には地域有志のご協力による「新富太鼓」や盆踊りのご指導、8 月には傾聴ボランティアによる尺八演奏などが行われた。また今年度よりお誕生日会を各月 25 日に行うことを決定し、主催委員による各種レクリエーションを毎月バラエティに執り行っている。

3 短期入所生活介護 新とみ

(1) はじめに

ショートステイはキャンセルや特養の空床があり、利用する立場からすれば、昨年
に続き比較的に利用しやすい状況であった。区内の方については、最長で 30 日間まで
の利用が可能である。ショートステイの利用は、抽選による予約での利用を基本とし
つつ、抽選から漏れた方についても、急なキャンセルや特養入所者の入院により空い
たベッドをより多くの方に利用していただくため、FAX など空き情報を提供すると
ともに、ホームページの開設に伴いショートステイの空き情報を掲示することにより、
常時正確な情報を提供している。また、毎月、区外の事業所へ案内を出していること
などから、区外の方の利用も多く、かなりの成果をあげている。

周囲の経営環境としては、平成 17 年度から区立の老健施設が 6 ヶ月の長期利用を認
めたこと、平成 19 年 5 月に、区内に特養ホーム「はるみ」が新設されたことなど、大
きな環境変化があったが、前記のような情報提供等の努力が奏功して、利用率に大き
な変化はなかった。別表 10に示してあるように、特養・ショート合計の年間稼働率は
前年度の 108.05% に対して、24 年度は 104.50% と約 4% の減少となっている。こ
れは、特養の稼働率が下降した結果である。別表 5にあるようにショートステイ単独
での年間稼働率は、304.11% で前年度と比較してかなりの増加である。

(2) サービス実施状況

送迎：施設～利用者宅の送迎（ドア ヅ ドアの実現）。

介護：身体の状態に応じた食事介助・排泄介助・おむつ交換・体位交換・施設内の移
動の介助。

食事：事前の面接時に確認し、身体の状態に適した食事を提供している。

入浴：週 2 回以上。身体の状態に応じ機械浴・介助浴・一般浴にて必要な介助を行な
っている。

機能回復訓練：個別機能回復訓練、機能訓練指導員による集合訓練・レクリエーショ
ン・音楽療法・セラピードッグなど。

健康管理：毎日のバイタル測定と日々の服薬管理等の健康管理・指導。

胃ろう、ストマ、インスリン、バルーンカテーテル、在宅酸素等の医療的対応

(3) サービスに関する苦情・相談

次のような苦情の申し出があり、誠意を持って対応し解決した。

- ・持って行った衣服が紛失した。
- ・退所時に他人の衣類等が紛れ込んでいる。
- ・同じ部屋の利用者の声が大きく夜眠れなかった。
- ・希望する日にショートステイが混んでいて予約できない。

(4) 一年の状況と今後の課題

連休や行事のある時など、ご希望の日がちに予約しづらくなっているという現状がある。抽選に漏れてしまった方についても、キャンセル待ちの登録など、空きベッドが出た時にすぐ利用できるような連絡体制の確立と情報の提供を徹底していくことが必要である。また、相談の中で目立っていたのが衣類の紛失と退所時に他人の衣類が紛れ込んでいることであった。原因としては、洗濯の業者に誤って出してしまう回収に間に合わなかったことや他の利用者のもものと混同してしまうということなどが挙げられた。そのため、衣類に名前を付けることや分類を徹底するなど紛失の防止と他人の衣類の混同防止に努めた。今後は、リースによる衣類の活用等についても検討してみる必要があるかも知れない。さらに今年度はH I V、胃ろう、インスリン、在宅酸素等の医療的対応を必要とする利用者が著しく増えた。今後も医療対応の利用者は増え続けることが予想され、これに伴い職員のケアの質の向上が今後の課題とされることである。

いずれにしても、引き続きひとりひとりの状況にあわせたきめ細かいケアを行えるように、個々のニーズの把握に努め、今後も、また利用したいと思って頂けるようなサービスを提供すべくサービスの質の向上に努めていきたい。

4 通所介護 新とみ

(1) 利用者の状況

23年度はデイサービス見直し編成の年度でもあった22年より、23年度にかけて利用者数の落ち込みが著しくみられた。その要因として、利用者のデイサービスへのニーズが、リハビリへと変わっていったことがあげられる。従来型のデイサービスからリハビリ型のデイサービスへと、利用者の意識の変化も顕著であり、家族もまた「リハビリのできるデイサービス」への期待を大きくした。

「新とみ」ではこうした利用者、家族のニーズを受け、23年4月より理学療法士を配置し、毎曜日利用者が個別にリハビリを受けられる体制を整えた。外部的には居宅介護支援事業所等にリハビリの案内チラシを配布、またデイサービス見学者、体験者を積極的に受け入れ、リハビリ体験を試みた。こうした外部へのはたらきかけが功を

奏し、利用者は徐々に増えていった。12月頃には、目に見えて利用者数が増加し、1日平均約29名まで増員することができた。昨年同様今年度も季節変動もなく、比較的安定した稼働率74.55%を出しているが、やや落ち込みがみられている。利用者の半数以上がリハビリを目的としていることもあり、今年度も男性の利用者が増え続けているが、リハビリだけに頼ることなく、特徴あるデイサービスづくりが目標である。

今年度は医療的対応を必要とする利用者がさらに増えていることがあげられる。胃ろう3名、ストマ2名、インスリン5名、バルーンカテーテル3名、痰吸引他、これら医療的対応に応じるため、看護師2名体制をとり、手厚いケアに努めている。今後も医療的ニーズの増大は想定され、デイの職員においても知識とケアの質の向上を図ることが課題である。

24年度の利用実人員は別表8のとおり1355名、延べ利用回数10373回となっており、利用実人員は前年度と比べて276名増加した。また、延べ利用回数は、利用者一人あたりの利用回数が月平均7.65回となり、前年とほぼ同様に推移している。利用者の平均年齢は別表7のとおり男女合計の平均では79.4歳となっている。内訳では男性77.8歳、女性80.7歳で、ほぼ前年と同様である。

なお、デイサービスに係わる送迎利用率は95%、入浴利用率は90%となっている。送迎車両については、赤い羽根共同募金による補助金を活用して、福祉車両1台を増設した。

前述したとおり、特養・ショートに関しては既に100%以上の稼働率であるので、施設の収入を伸ばすにはデイサービスの稼働率をさらに上げることが必要である。

(2) 運営状況

①行事の実施

開設当初より、利用者の方に生活の豊かさとメリハリを持っていただくために、菖蒲湯や柚子湯など季節に応じた日課活動を取り入れるとともに、特養と合同でイベントを開催している。また、食事サービスやお買い物代行などの在宅生活支援のための活動は継続中である。22年度から始まった朝食サービスは、今年度も利用者や家族から好評を得ており、利用人数を増やしている。

日々のプログラムは、音楽療法、セラピードック、書道、折り紙、朗読、ファッションショー、新富太鼓、そろばん教室、介護予防運動、相撲甚句、歌、アロマセラピー等、地域や企業のボランティアの支援のもと息長く継続されている。平成20年11月にスタートした「若年認知症デイサービス」は、今年度より「練馬若年認知症サポートセンター」へ活動の拠点を移行した。新とみデイサービスと連携しつつ、新たな取り組みを試みている。

この他、当期中に行った主な行事は以下の(表1)とおりである。

(表1)

4月	・リサイクルファッションショー ボランティアの方々によるリサイクルファッションの
----	------------------------------------------

	<p>ショー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイ古式マッサージ（女性1名） マッサージ師のボランティアによる
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・大正琴（女性4名） 季節の唱歌から懐かしい歌謡曲まで演奏 「こいのぼり、荒城の月、湖畔の等」 ・相撲甚句（男性2名） 力強い相撲甚句が朗々と響き渡った
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノコンサート（女性1名） クラシックからなつメロまで ・詩吟教室 詩吟の先生によるご指導
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・盆踊り大会（地区の女性ボランティア4名） 新富太鼓に合わせて、浴衣姿のボランティアの季節感溢れる盆踊り、利用者も参加しての賑やかなひと時だった
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルファッションショー（女性5名）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・カンナリアンコーラス（男性5名、女性4名） 敬老の日になんで、懐かしい歌謡曲や名曲の数々を皆で歌った ・ピアノコンサート（女性1名） ピアノで敬老の日を祝った ・中央区福祉健康祭り参加（2回目） そろばん教室開催
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・相撲甚句（男性2名） ・大正琴（女性4名） 「有楽町で逢いましょう他」
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・外出レク ご希望者を募って辰巳の森まで小遠足
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスコンサート ライオンズクラブ主催による、恒例のクリスマスコンサート。 ・セラピードッグ 訓練された犬によるふれあいと癒しの集い
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・朗読会（女性6名） ・バイオリン演奏会（男子2名） 小学生の男子2名による演奏会
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルファッションショー（女性5名）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会（参加家族35名） 定例の家族会。特養、ショート、デイ利用者の家族とともに、会食、歓談の時間を持った ・傾聴ボランティア（3名） 仏教総合研究所「ボランティア・プロジェクトダーナ東京」所属のお坊さんたちが来所。約1時間、優しい時間を利用者と共に共有された

②ボランティア、実習生の受け入れ

地域交流、デイケアの日課活動の潤活化およびヘルパー2級の実習の場として受け入れをした。定期的なボランティアとして朗読ボランティア、書道ボランティア、詩吟ボランティアが年12回、折り紙ボランティアが年10回、その他2回である。ヘルパー2級の実習生はデイでは、1年間で167名を受け入れている。

特養では、毎週水曜日に洗濯物整理のボランティアをはじめ、地域の多くの方々のご協力をいただいている。また、ヘルパー2級、社会福祉士取得に向けた実習生は一年間に581名を受け入れている。

③入浴・機能訓練

デイサービス利用理由の大きな1つとして入浴がある。その期待に応えるため

希望者には基本的には毎回入浴を提供しており、入浴利用率は90%である。

また、機能訓練に関しては、今年度より理学療法士を配置し、利用者一人ひとりの個別機能訓練を実施している。平行棒を使った歩行訓練、マットでのストレッチ等、利用者の身体状況に応じた個別機能訓練である。

5 各種委員会

各種委員会は役割と人員を常に見直し、①年中行事委員会、②栄養委員会、③身体拘束廃止委員会、④排泄・褥瘡委員会、⑤ケアプラン委員会、⑥環境衛生・感染症対策委員会、⑦事故防止対策委員会、⑧防災・安全対策委員会、⑨リハビリ委員会等を開催した。20年2月からは、毎月1回の各委員会の会議を開催している。

6 行事

3階フロアを利用して、特別養護老人ホーム・短期入所・通所介護利用者合同で実施する形をとり、年間を通して（前掲表1参照）各種行事に取り組んだ。

7 健康管理

新しく入所する利用者には、入所時に診療情報を提出していただいていたが、定期診断についても、移動診断を依頼し、館内にてレントゲン撮影等を受診した。また、11月にはインフルエンザ予防接種の同意を得られた方について嘱託医による実施をした。同時に、適度な室温と湿度の維持、消毒液による手指の清掃等の取り組みを徹底した。同様に日常のケアについても、嘱託医による週1回の往診に加えて、診察が必要な方については、通院の便宜を最大限図るようにしている。

8 防災訓練

防災管理者及び京橋消防団に所属する2名の職員が中心となり、新富町会の防災訓練に参加するなど、防災への知識・技術の向上に努めた。また、新規に採用された職員については、消防機器訓練を随時実施している。さらに、京橋消防署への研修参加のほか、地域等の協力も得て、毎月一回「震災・消防訓練」を実施している。

以 上